幼児の言語発達に関する研究

研究第5部 竹 田 俊 雄
望 月 武 子
丸 尾 あき子

I 目 的

日常話されている幼児の言語について、いろいろの年齢段階での発達の状況を調査し、各発達段階における言語を文の構造や機能的な面から分析、検討してその実態を把握するとともに、言語発達に影響を及ぼす諸因子を明らかにしようとするものである。

ここでは、幼児の言語の発達を主として構文の領域から考察し、言語の発達基準の設定への一階梯にしようとする。

II 予 備 調 査 （質問紙法による調査）

(1) 予備調査の目的

予備調査は主目的を本調査の対象児を選定することにおき、副次的に、質問紙法でどの程度子どもの言語発達の状況をとらえることができるか、また言語発達を質問紙法で調査する場合に、いかなる問題点があるかを検討することを目的とした。

(2) 予備調査の対象

対象は愛育病院の保健指導部で継続指導中の子どもの中からカルテにより、未熟児や、著しい発達遅滞を伴なうと認められるもの、母親が現に家庭外で勤労しているものを除外し、1～2か月後の本調査を予想して、調査時にちょうど、1才、1才6か月、2才、2才6か月、3才になるように年齢を考慮して質問紙を発送した(120ページ参照)。調査数は第1表の通りで195名から回答を得た。調査期日は昭和40年8月～9月、一部は12月に行なった。

第1表 対 象
Table 1. Subjects

訪問時年齢	1;0	1;6	2;0	2;6	3;0	計
調査時年齢	0;10	1;4	1;10	2;4	2;10	
調 査 数	90	106	71	88	60	415
回 答 数	50	37	33	41	34	195

(3) 予備調査の結果

a）言語発達の程度を年齢別にみると第2表の通りである。10か月では殆どが喃語、または喃語から有意味語に移行しつつある段階である。1才4か月では殆どが一語文の段階にあり、1才10か月では二語文、多語文の段階のものが多くなる。2才4か月には助詞を伴なった短文を話す段階にあり、2才10か月ではすべての子どもが

第2表 年齢別にみた言語発達
Table 2. Speech and Language Development by Age

段階／年齢	喃語		喃語→有意味語		単語(少)		単語(多)		二語文		多語文		数詞の使用		助詞の使用		ボク、ワタシの代名詞使用		従属文	
		%		%		%		%		%		%		%		%		%		%
0;10	19	40.5	19	40.5	7	14.9	1	2.1			1	2.1								
1;4			2	5.4	16	43.2	9	24.4	7	18.9	3	8.2	2	5.4	1	2.7				
1;10							5	15.1	10	30.2	18	54.7	12	36.4	12	36.4	5	15.1	5	15.1
2;4							1	2.4	1	2.4	38	92.8	17	41.5	35	85.5	12	29.2	20	48.9
2;10											34	100.0	28	82.2	34	100.0	15	44.1	29	85.0

ことばの発達に関する調査
Questionnaire on Speech and Language Development

記入月日（昭和　　年　　月　　日）記入者（　　）

児童氏名		男・女	昭和　年　月　日生	年令	才　月	出生順位	人中第　子
住所						電話（　）	

家族	氏名	性別	年令	職業	最終学歴	その他（構内別棟居住など付記のこと）
父					大　高　中 旧高専　旧中　旧高小	
母					大　高　中 旧高専　旧高女　旧高小	
使用人	その他					

生育歴	
	首のすわり　　か月頃
	歩きはじめ　　才　か月頃　　まだ歩かない
	かたことのはなしはじめ　　才　か月頃　　まだはなさない
	今までの健康　　健康　　病気がち
	大きな病気（　　）
	現在の人見知り　　人見知りが強い方　　普通　　人見知りをしない
	主な養育者　　母　父　祖母　使用人　その他（　　）
	きょうだい以外のこどもとの遊び　　遊ぶ機会が多い　　少い　　まったくない
	遊び相手　　年長　　同年　　年少

お子さまは現在どの程度のことばを話しますか。下の項目の該当する項に○印をつけ、右の欄にその例を書いて下さい。

1.　何か話しかけるがまだ意味のあることばはでていない	例
2.　マンマ、パパ、ブーなどいうが特定の対象についてではない 例　マンマ　食物のことでもあり母のことでもある 　　パパ　誰でも人を呼びかける時にいう	
3.　単語を２ツ３ツいう	
4.　かなり沢山の単語をいう	
5.　単語を２ツ重ねていう（二語文） 例　パパ　バイバイ 　　ワンワン　ネンネ	
6.　単語を３ツ以上重ねていう 例　ママ　オンモ　イコー 　　パパ　カイシャ　イッタ	
7.　数詞を使う 例　モウ　ヒトツ　チョーダイ 　　フタツ　アルヨ	
8.　助詞を使い始める 例　パパ　ガ　ヤッタノヨ 　　ボク　ノ　ブーブ　ネ	
9.　ボク、アタシなどの代名詞を使う	
10.　従属文をいう 例　オテテ　アラッテクル　カラ 　　マッテテネ 　　ツミキカシテヨ　ソレジャナイト 　　デキナイカラ	

家庭訪問についてのお返事

◎　家庭訪問について　　差支えない　　都合がわるい

◎　御都合のよい日時　　月 上/中/下 旬　午 前/后　時頃

（実施の都合上御希望通りにならないことがあるかもしれませんが一応お書きいただきたく、なお御訪問いたす場合は予め電話などでお打合せ申上げます。）

◎　最寄り交通機関からお宅までの略図

第3表　性別からみた言語発達
Table 3.　Speech and Language Development by Sex

年齢	性別＼段階	喃語	喃語→有意味語	単語(少)	単語(多)	二語文	多語文	数詞の使用	助詞の使用	ボク、ワタシの代名詞使用	従属文
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
0；10	男 N＝26	9 34.7	11 42.4	6 23.0							
	女 N＝21	10 47.6	8 38.1	1 4.8	1 4.8		1 4.8				
1；4	男 N＝20		2 10.0	11 55.0	4 20.0	2 10.0	1 5.0				
	女 N＝17			5 29.4	5 29.4	5 29.4	2 11.8	2 11.8	1 5.9		
1；10	男 N＝15				4 26.6	7 46.7	4 26.6	5 33.3	2 13.3	3 20.0	1 6.7
	女 N＝18				1 5.6	3 16.7	14 78.0	7 38.9	10 55.5	2 11.1	4 22.2
2；4	男 N＝21				1 4.8	1 4.8	19 90.5	7 33.3	16 76.0	8 38.1	7 33.3
	女 N＝20						19 95.0	10 50.0	19 95.0	4 20.0	13 65.0
2；10	男 N＝18						18 100.0	15 83.5	18 100.0	9 50.0	15 83.5
	女 N＝16						16 100.0	13 81.3	16 100.0	6 37.5	14 87.8

多語文を話し、複雑な構造の文が現われ、日常会話は不自由がなくなる。

b）言語発達を性別により比較すると、第3表に示したように、10か月ではその差は認められないが、1才4か月以後、2才4か月まではいずれの年齢段階でも女子の発達が優位にある傾向が認められる。

c）きょうだいの有無による発達の差を比較すると、第4表のように、いくぶん一人子の方に発達が早い傾向をうかがうことができたが、明らかな差は認められない。

d）質問紙法による調査では、前記のような母親にとらえやすい項目のみを選んでも調査内容の理解が充分でなく、各年齢段階とも約10%前後の誤りがみられた。したがって、さらに詳細な調査をする場合には子どもの言語を直接記録する方法が必要であることが明らかになった。

第4表 同胞の有無と言語発達
Table 4. Difference in Speech and Language Development—with and without Sibling

年齢	段階	喃語	喃語→有意味語	単語(少)	単語(多)	二語文	多語文	数詞の使用	助詞の使用	ボク、ワタシの代名詞使用	従属文
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
0；10	一人子N＝21	7 33.3	8 38.1	5 23.7			1 4.8				
	二子 N＝26	12 46.5	11 42.3	2 7.7	1 3.9						
1；4	一人子N＝14		1 7.2	6 42.9	3 21.4	2 14.3	2 14.3	2 14.3	1 7.2		
	二子 N＝23		1 4.4	10 43.5	6 26.1	5 21.7	1 4.4				
1；10	一人子N＝16				1 6.3	4 25.0	11 68.8	7 43.7	7 43.7	3 18.7	4 25.0
	二子 N＝17				4 23.5	6 35.7	7 41.2	5 29.5	5 29.5	2 11.8	1 5.9
2；4	一人子N＝17						17 100.0	8 47.0	17 100.0	6 35.2	9 53.0
	二子 N＝24				1 4.2	1 4.2	21 87.5	9 37.5	18 75.0	6 25.0	11 46.0
2；10	一人子N＝14						14 100.0	12 85.6	14 100.0	5 35.7	13 92.8
	二子 N＝20						20 100.0	16 80.0	20 100.0	10 50.0	14 70.0

Ⅲ 本 調 査

1. 方 法

(1) 対 象

予備調査に回答したものの中から、本調査時に1才、1才6か月、2才、2才6か月、3才（前後1か月の幅をもつ）の幼児各20名を選定して調査対象とした。その20名の内訳は、男女それぞれ10名として、きょうだい構成は一人子各4名、兄の1名あるもの各3名、姉の1名あるもの各3名として、弟妹のあるものは選定しなかった。但し、3才児は録音の不調、その他の理由で考察の対象となったものは11名である。

(2) 調 査 方 法

昭和40年8月より昭和41年3月にわたり、対象児を個々に家庭訪問して、家庭での自然の遊びの中で話される言語をテープレコーダーにより収録する方法を用いた。

調査時間は20分間と定め、15分間の自由遊びの場面と、5分間の条件を設定した場面（絵本を提示した）とを録音した。この際、母親にはふだんと変らぬ態度で接するよう依頼した。調査者はラポートの成立に努め、子どもが常態になった時に録音を開始し、調査者からは積極的な働きかけはせず、子ども側からの働きかけには自然に応じるような態度を保った。

(3) 整 理 方 法

収録された言語をすべて文字化し、こどもの言語を文を単位にして一枚ずつカードに記入した。ここでは15分間の自由遊び中に話された有意味語だけをとりあげ、構

文上から次の項目について分析した。この整理には、2年余を費した。

a）文の数

15分間に話された文の数を調べた。文を数える基準としては次の条件に該当するものを一文とした。

(イ) 一文として完成している場合

(ロ) 不完全でも休止できれている場合

(ハ) 並列文

(ニ) 複文

b）語数

品詞により分析した。品詞の分類は、名詞、代名詞、数詞、動詞、形容詞、連体詞、形容動詞、副詞、接続詞、感動詞、助動詞、助詞にし、未分化語（構造的に不完全なことば）、擬声（一般にいわれる擬声語とは違って、たとえば自動車をいじりながらブーブーブーというように動作に伴なって発する声を擬声とした）を加えた。

c）一文の長さ

一文を構成する品詞数を数えて文の長さを表わした。

d）語彙

年齢の低い幼児の場合、同一言語を反覆している場合が多いので発語数だけではその子どもの言語の発達状況をとらえることができないので、各品詞別に出現した語彙を数えた。

e）文の構造

文の構造は、文節に区切り、一文節、二文節、三文節、多文節（四文節以上）からなるそれぞれの文、及び並列文、複文に分類した。

2. 結　　果

(1) 各年齢段階の発達

a）1才児

1才児の言語はその殆どが周囲のものに理解できない、いわゆる喃語であり、その喃語が日常幼児と密接な接触のある母親には一定の意味をもって伝達される場合もあらわれている。また、言語を習得する過程とみられる反響語や、自発的な理解可能な言語の出現も僅かながらみられる。

(イ) 文の数と語数

第5表は喃語を除いて語の形態をとった言語だけをとりあげたものである。個人的にみると喃語だけで有意味語の出現の全くないものも4名みられたが、他は有意味語の使用がみられ、始語の段階にあるということができる。単語を続けて使用することはなく、文の形態は一語文である。

第5表　1才児の文の数と語数
Table 5. Number of Sentence and Word uttered by the One-Year-Olds

	男	女	計
文の数	7.4	6.2	6.8
語数	7.4	6.2	6.8
一文中の品詞数	1	1	1

第6表　1才児の品詞及び語彙の出現頻度
Table 6. Frequency of parts of Speech and Vocabulary used by the One-Year-Olds

性別 / 品詞	男			女		
	F/N	%	語彙	F/N	%	語彙
名詞	6.1	72.6	2.0	4.6	71.8	2.0
代名詞	0.2	2.4	0.2	0.4	6.3	0.4
動詞				0.1	1.6	0.1
形容詞	0.1	1.2	0.1	0.1	1.6	0.1
感動詞	0.7	8.3	0.5	0.9	14.0	0.7
未分化語	0.3	3.6	0.1	0.1	1.6	0.1
擬声	1.1	11.9	0.2	0.2	3.1	0.2
計	8.5		3.1	6.4		3.6

(ロ) 品詞及び語彙

一語文の性質上、文法的に品詞を分類するのは多少無理があるが、形式的に分類した結果は第6表の通りである。数は出現頻数（F）を調査数（N）で除した平均頻数で表わしてある。

使用される語の大部分が名詞であり、次いで感動詞が、男子には擬声が、僅かに出現している。

1才児に使用された語彙の平均値は男子3.1、女子3.6である。大部分が名詞であるが、トット、ウマウマなど重畳や、ワンワン、ニャーニャなどの擬音語が多く、対象はママ、ワンワン、マンマ、ブーブなど、身近なものに限られている。

出現頻度の高いことばを順にあげると第7表のようになる。

b）1才6か月児

喃語は少なくなって単語が増加して来る。単語は命名や、欲望、感情を表現する言語として使用されるが、一語文の形態をとり、欲望、感情と対象とが必ずしも分化

第7表　1才児の最頻出現語彙
Table 7. Vocabulary of High Frequency

こ と ば	平均頻数 $\left(\frac{F}{N}\right)$
ワンワン	1.7
ブーブ（自動車）	0.7
ママ	0.6
ベビー	0.5
ハイ（返事）	0.5
マンマ	0.4
ジ（字）	0.3

第8表　1才6か月児の文の数と語数
Table 8. Number of Sentence and Word used by Children of 18 months Old

	男	女	計
文 の 数	32.9	53.2	43.1
語 数	34.5	58.8	46.7
一文中の品詞数	1.04	1.11	1.08

していない。

(イ) 文の数と語数

第8表は文の数と語数をまとめたものである。文の数、語数ともに1才児に比べ増加しているが、個人的にみると文の数、4～87、語数4～110に広がり個人差が見られる。一文を構成する品詞数は1.08である。

(ロ) 品詞及び語彙

使用された言語を品詞別に示したものが第9表である。品詞の出現にもかなり個人差がみられ、名詞と感動詞だけのものから10種以上の品詞の出現をみるものまでに及んでいる。平均をみると名詞が45%前後で最も多いが1才児に比較すると目立って減少している。これに対し感動詞と、男子の擬声が増加し、他の品詞も僅かではあるが使用され始めている。

使用された語彙の平均値は、男子11.4、女子23.2である。

名詞の対象は動物（平均頻数、7.0）、交通（6.4）、人（3.3）、食物（2.3）に関するものが主である。感動詞では、ハイ、ウン、イヤ、などのように応答や、感情、欲求を表現する言語が多く、遊びの動作に伴なってブーブー、ポッポーなど擬声があらわれている。使用頻度の

第9表　1才6か月児の品詞及び語彙の出現頻度
Table 9. Frequency of Parts of Speech and Vocabulary used by Children of 18 months Old

品詞＼性別	男			女		
	$\frac{F}{N}$	%	語彙	$\frac{F}{N}$	%	語彙
名 詞	21.0	48.6	6.3	27.0	44.5	11.3
代名詞	2.1	4.9	0.4	4.8	7.9	1.2
数 詞				0.6	1.0	0.5
動 詞	0.9	2.1	0.3	3.3	5.4	1.4
形容詞	2.2	5.1	0.5	2.0	3.3	1.3
形容動詞				0.7	1.2	0.4
副 詞	0.4	0.9	0.1	1.1	1.8	0.5
感動詞	6.4	14.8	1.3	15.4	25.4	3.8
助動詞	0.4	0.9	0.2	1.1	1.8	0.5
助 詞	0.2	0.5	0.2	2.4	4.0	1.0
未分化語	0.9	2.1	0.3	0.4	0.7	0.2
擬 声	8.7	20.1	1.8	1.8	3.0	1.1
計	43.2		11.4	60.6		23.2

第10表　1才6カ月児の最頻出現語彙
Table 10. Vocabulary of High Frequency

こ と ば	平均頻数$\left(\frac{F}{N}\right)$	こ と ば	平均頻数$\left(\frac{F}{N}\right)$
ハイ（返事）	5.0	ワンワン	1.5
ブーブ	3.8	ナイ（ナイナイ形容詞）	1.3
コレ	2.0	ジージ（字）	1.3
ウン（返事）	1.8	ママ	1.2
イヤ（感動詞）	1.7	チョーダイ	1.0

高い語は第10表の通りである。

(ハ) 構文

第11表は文の構造を調べたものである。一文節からなるものが大部分であるが、極めて僅かながら二文節の文を話すものがではじめている。

c）2才児

知識欲の発達に伴なって単語が著しく増加して来る。主語と述語からなる簡単な構成の文があらわれ始めて、簡単な応答や意志の伝達が明瞭になって来る。語彙、構

第11表　1才6か月児の文の構造
Table 11. Sentence Construction by Children of 18 months Old

	男		女		計	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%
一文節	31.9	97.0	51.6	97.1	41.8	97.0
二文節	1.0	3.0	1.4	2.6	1.2	2.8
三文節			0.1	0.2	0.05	0.1
数をかぞえる			0.1	0.2	0.05	0.1
計	32.9		53.2		43.1	

第12表　2才児の文の数と語数
Table 12. Number of Sentence and Word used by the Two-Year-Olds

	男	女	計
文の数	128.0	101.2	114.6
語数	177.7	148.8	163.3
一文中の品詞数	1.43	1.47	1.42

第13表　2才児の品詞及び語彙の出現頻度
Table 13. Frequency of Parts of Speech and Vocabulary used by the Two-Year-Olds

性別 / 品詞	男			女		
	F/N	%	語彙	F/N	%	語彙
名詞	72.1	39.4	26.8	60.0	39.7	30.4
代名詞	20.9	11.4	3.1	14.0	9.2	3.1
数詞	1.5	0.8	1.1	2.8	1.9	0.9
動詞	15.5	8.5	6.0	14.5	9.6	7.2
形容詞	6.4	3.5	2.2	3.2	2.1	1.6
形容動詞	1.9	1.0	0.9	2.6	1.7	0.8
副詞	5.6	3.0	2.8	2.2	1.5	1.9
感動詞	27.7	15.1	4.7	21.3	14.1	4.9
助動詞	9.2	5.0	2.3	9.7	6.5	3.4
助詞	16.1	8.8	4.4	17.1	11.4	4.9
未分化語	0.8	0.4	0.1	1.4	0.9	0.6
擬声	5.7	3.1	2.6	2.2	1.5	0.9
計	183.4		57.0	151.0		60.6

文ともに個人差が目立っている。

(イ) 文の数と語数

第12表に示したように文の数、語数ともさらに増加して来ている。しかし、文の数は最低29、最高337、語数は31～540、一文中の品詞数は1.07～2.06のように非常に個人差が目だっている。

(ロ) 品詞及び語彙

第13表に示したように、使用される品詞の種類はさらに増加して、代名詞、助詞、動詞の使用がめだって来ている。

2才児に使用された語彙の平均値は、男子57.0、女子60.6である。名詞の内容は使用頻度の高い順に、交通(13.4)、動物(12.9)、人(7.4)、食物(7.2)、遊び(4.0)に関するものがあげられる。

代名詞は、コレ、ココなどの指示代名詞が多くみられる。また、ナニ、ドコ、ダレなどの疑問詞があらわれ、周囲のものに対する関心が強まってきていることを示している。

助詞は、動詞に接続するテが最も頻繁に使用され、ついで終助詞のヨ、ノ、ネが多く使われている。

動詞は、居ル、アル、乗ル、スル、チガウなどが度々用いられ、活用形からみると連用形が最も多く、終止形、未然形の順になり他の活用形は殆どみられない。

出現頻度の高い語彙は第14表の通りである。

第14表　2才児の最頻出現語彙
Table 14. Vocabulary of High Frequency

ことば	平均頻数(F/N)	ことば	平均頻数(F/N)
ウン	11.3	ハイ(返事)	1.4
コレ	10.8	パパ	1.4
タ(助動詞)	3.6	ナイ(形容詞)	1.3
ママ	3.2	ナイ(助動詞)	1.3
イヤ(感動詞)	3.1	コロナ	1.2
ココ	3.0	ナニ	1.1
アッ(感動詞)	2.4	ノル	1.0
ブーブ	1.9	アル	1.0
デンシャ	1.8	キシャポッポー	1.0
オーライ	1.7	ワンワン	1.0
イル	1.6	オンマ	1.0
ダ(助動詞)	1.6		

第15表　2才児の文の構造
Table 15. Sentence Construction by the Two-Year-Olds

	男		女		計	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%
一文節	105.5	82.4	86.1	85.0	95.8	83.5
二文節	20.3	15.9	12.7	12.6	16.5	14.4
三文節	1.9	1.5	1.8	1.8	1.9	1.7
多文節	0.2	0.1	0.6	0.6	0.4	0.4
数をかぞえる	0.1	0.1			0.05	0.04
計	128.0		101.2		114.6	

(ハ) 構文

第15表にみるように、まだ一文節の文が大部分であるが、主語と述語、または修飾語などからなる二文節の文がみられるようになる。

d）2才6か月児

語数は著しく増加してきて二文節からなる文の増加が目立ってくる。僅かではあるが多文節の文の出現もみられ、相手の質問に応じたり、自分の感情や意志の表現がかなり上手に会話によって行なわれている。

(イ) 文の数と語数

個人的にみると文の数は最低61、最高211、語数115～581、一文中の品詞数1.56～3.11となっており、平均は第16表に示した通りである。個人差はあるが、2才児に比し語数が著しく増加するのに対し、文の数は変化がなく、長い文が話されるようになって来ることを示している。

(ロ) 品詞及び語彙

第17表に示したように、すべての品詞にわたって出現がみられる。助詞の使用は急激に増加し、動詞、助動詞の出現がめだって来る。

使用された語彙の平均値は、男子87.5、女子94.3である。名詞について内容をみると、人（9.6）、固有名詞（7.5）、抽象名詞（7.5）、動物（6.5）、交通（6.3）が多く、ハンタイ、ナカ、オモテ、ムコウ、など位置や状態を示すことばの出現がめだっている。

動詞の語彙は急激に増加して、居ル、来ル、ヤル、アル、スル、ミル、デキル、行クなどが多く使用されているが、活用形の上からみると2才児の場合と殆ど変化がない。

助動詞はその種類もふえ、意志を表わすウ、断定のデス、丁寧な表現のマスなどの使用が増加してきている。……テシマッタの音便、チャッタは便宜上、助動詞に分類したが、これの使用が目立っている。

出現頻度の高い語は第18表の通りである。

(ハ) 構文

二文節、三文節の文が増加し、主語、修飾語、目的語、述語の構成からなる多文節の文も話されるようになる。（第19表）

e）3才児

日常会話によりかなり自由に伝達や表現が行なわれて

第16表　2才6か月児の文の数と語数
Table 16. Number of Sentence and Word used by Children of 30 months Old

	男	女	計
文の数	131.0	110.8	120.9
語数	291.4	278.2	285.0
一文中の品詞数	2.22	2.51	2.36

第17表　2才6か月児の品詞及び語彙の出現頻度
Table 17. Frequency of Parts of Speech and Vocabulary used by Children of 30 months Old

性別 / 品詞	男			女		
	F/N	%	語彙	F/N	%	語彙
名詞	64.6	22.0	26.7	62.8	22.5	31.7
代名詞	29.0	9.9	5.1	26.2	9.4	4.4
数詞	5.3	1.8	2.7	5.1	1.8	2.7
動詞	43.0	14.6	15.6	41.5	14.8	17.9
形容詞	15.1	5.1	4.8	11.2	4.0	4.3
連体詞	0.7	0.2	0.3	1.3	0.5	0.5
形容動詞	6.0	2.0	2.2	3.6	1.3	1.6
副詞	10.3	3.5	4.9	8.3	3.0	4.4
接続詞	0.3	0.1	0.1	0.7	0.3	0.3
感動詞	20.9	7.1	6.3	22.5	8.1	5.8
助動詞	27.8	9.4	5.4	23.6	8.4	6.4
助詞	68.3	23.2	11.2	71.3	25.5	13.6
未分化語	0.1	0.03	0.1	0.1	0.04	0.1
擬声	2.9	0.9	2.1	1.2	0.4	0.6
計	294.3		87.5	279.4		94.3

第18表　2才6か月児の最頻出現語彙
Table 18. Vocabulary of High Frequency

こ と ば	平均頻数(F/N)	こ と ば	平均頻数(F/N)
コレ	12.8	スル	2.2
タ（助動詞）	10.0	イヤダ(形容動詞)	2.2
ウン（返事）	8.7	イイ（形容詞）	2.1
ココ	4.6	コウ	2.1
ナイ（形容詞）	4.4	デス	1.9
コッチ	4.3	ウン（疑問）	1.9
ママ	4.2	ネー（感動詞）	1.8
イル	4.1	イク	1.8
ナイ（助動詞）	4.0	デキル	1.5
自分の名前	3.3	ワンワン	1.4
ダ（助動詞）	3.3	デンシャ	1.4
ウ（助動詞）	3.0	モウ	1.3
ナニ	2.9	イヤ（感動詞）	1.2
クル	2.8	ブーブ（自動車）	1.2
ヤル	2.7	ドコ	1.2
アル	2.5	オニーチャマ（チャン）	1.0
チャ（助動詞）	2.4	モツ	1.0
ホラ	2.3	アゲル	1.0

第19表　2才6か月児の文の構造
Table 19. Sentence Construction by Children of 30 Months Old

	男		女		計	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%
一 文 節	83.4	63.7	65.6	59.2	74.5	61.6
二 文 節	38.0	29.0	28.1	25.4	33.1	27.3
三 文 節	6.5	5.0	12.2	11.0	9.4	7.7
多 文 節	1.7	1.3	3.3	3.0	2.5	2.1
並 列 文	0.5	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3
複 文			0.4	0.4	0.2	0.2
数をかぞえる	0.9	0.7	0.9	0.8	0.9	0.7
計	131.0		110.8		120.9	

第20表　3才児の文の数と語数
Table 20. Number of Sentence and Word used by the Three-Year-Olds

	男	女	計
文 の 数	89.0	101.0	94.5
語 数	237.7	260.8	248.2
一文中の品詞数	2.68	2.57	2.62

第21表　3才児の品詞及び語彙の出現頻度
Table 21. Frequency of Parts of Speech and Vocabulary used by the Three-Year-Olds

性別 / 品詞	男			女		
	F/N	%	語彙	F/N	%	語彙
名 詞	39.0	14.2	21.8	35.8	13.8	18.8
代名詞	22.4	8.3	5.3	25.0	9.7	5.2
数 詞	2.3	0.9	1.5	6.0	2.1	2.8
動 詞	40.0	14.9	18.3	45.8	17.5	16.6
形容詞	5.3	1.9	3.0	8.2	3.1	4.0
連体詞	1.0	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2
形容動詞	6.3	2.4	3.5	2.6	1.0	1.6
副 詞	8.7	3.4	4.5	8.6	3.3	4.4
接続詞	0.8	0.3	0.7	0.6	0.2	0.6
感動詞	16.8	6.3	6.0	26.0	9.9	7.0
助動詞	38.9	14.6	6.0	37.0	13.8	5.6
助 詞	56.4	20.6	14.2	65.0	25.1	12.2
擬 声	32.0	11.8	10.0	1.2	0.4	0.8
計	269.7		95.2	262.0		79.6

いる。文の構成も文法的な形式が整って来る。

(イ) 文の数と語数

第20表にみられるように、文の数、語数とも2才6か月児に比べ増加がらみれないが、文の長さにおいては僅かながら発達がみとめられる。個人的にみると文の数最低31、最高189、語数95～429とお喋りの量には個人差が目立つが、一文中の品詞数は2.02～3.04となり差が少なくなって来ている。

(ロ) 品詞及び語彙

全品詞にわたって出現がみられ、未分化な形態の語がみられなくなる。第21表に示したように名詞の割合はさ

第22表 3才児の最頻出現語彙
Table 22. Vocabulary of High Frequency

こ と ば	平均頻数(F/N)	こ と ば	平均頻数(F/N)
タ（助動詞）	13.5	イヤ（感動詞）	1.6
コレ	8.3	ハイ（返事）	1.6
ナイ（助動詞）	6.9	ホラ	1.5
チャツ（助動詞）	6.2	コウ	1.5
コッチ	6.2	デキル	1.5
ウン（返事）	5.6	ドコ	1.4
ダ（助動詞）	4.0	イク	1.4
イル	3.4	モウ	1.4
オッコチル	3.0	イイ（形容詞）	1.4
ハイル	2.5	デス	1.3
アル	2.5	ミル	1.2
ヤル	2.5	コワレル	1.2
スル	2.5	ダメ（形容動詞）	1.2
ウ（助動詞）	2.3	アー（感動詞）	1.1
ママ	2.2	ヒトツ	1.0
ココ	2.0	イヤ（形容動詞）	1.0
ネー（感動詞）	1.9	アノネ	1.0
ナニ	1.6		

らに減少して、助動詞の使用は増加して来る。

使用された語彙は、男子95.2、女子79.6で、2才6か月児に比べ増加がみられない。

名詞は、交通、人、抽象名詞、固有名詞、遊びに関するものが多い。

動詞の語彙はいくらか増加している。活用形の上ではさほど変化はみられないが、未然形の使用がやや多くなっている。

出現頻度の高い語は第22表の通りである。

(ハ) 構文

第23表のように、文節の上からみた文の構成は、2才6か月児と比較して殆ど変化がみられない。

以上は、各年齢段階における言語発達の状況を眺めたものである。ここでは個々の子どもの分析結果を表示しなかったが、子どもにより言語発達の程度に著しい差のみられる場合がかなり多い。これは子どもの発達の個人差によるものがあると考えられる一方、調査時の子ども

第23表 3才児の文の構造
Table 23. Sentence Construction by the Three-Year-Olds

	男		女		計	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%
一 文 節	53.0	59.3	62.2	61.7	57.7	60.4
二 文 節	25.3	28.5	27.8	27.4	26.7	28.0
三 文 節	6.8	7.9	8.6	8.4	7.7	8.1
多 文 節	3.3	3.7	1.6	1.6	2.6	2.7
複 文	0.3	0.4			0.2	0.2
数をかぞえる	0.2	0.2	0.8	0.8	0.5	0.5
計	89.0		101.0		94.5	

の遊びの種類や、母親の働きかけの程度、その他の家族の参加の有無によってかなり影響をうけているものと推定される。

(2) 発達的考察

a) 文の数と語数

第24表は、15分間に話された文の数と語数を年齢との関係で比較したものである。

文の数は、2才までは年齢がすすむにしたがって著しく増加するが、2才6か月ではさほど変化がなく、3才ではやや減少する傾向をみせている。

語数は、2才6か月までは年齢とともに急増しているが、3才では逆に減少している。これからみて2才6か月頃が最もお喋りの多い時期ということができる。

調査方法に相違があり、直接的な比較はむずかしいが、牛島氏の研究と比べてみると、第24表にみられるよ

第24表 15分間に話された文の数と語数
Table 24. Number of Sentence and Word spoken in 15 Minutes

	文の数	牛島氏の研究結果	語 数	牛島氏の研究結果
1；0	6.8		6.8	
1；6	43.1	30.7	46.7	41.7
2；0	114.6		163.3	
2；6	120.9	39.1	285.0	109.9
3；0	94.5		248.2	
3；6		48.2		213.5

第25表　品詞数からみた文の長さ
Table 25.　Length of Sentence-studied by the Number of Part of Speech

一文中の品詞数	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
1	6.8	100.0	40.1	93.1	83.8	73.0	51.7	42.8	32.9	34.5
2			2.4	5.5	19.5	17.0	25.9	21.4	18.3	19.3
3			0.6	1.3	7.0	6.1	18.9	15.6	20.4	21.4
4			0.05	0.1	2.6	2.3	11.6	9.7	10.2	10.6
5					1.0	1.0	5.7	4.7	7.0	7.4
6					0.5	0.4	3.8	3.1	3.7	3.9
7					0.2	0.2	1.5	1.2	1.3	1.3
8							0.9	0.7	0.9	1.0
9							0.4	0.3	0.4	0.4
10							0.3	0.2	0.1	0.1
11							0.05	0.04		
12							0.2	0.1		
13							0.05	0.04		
14										
15										
計	6.8		43.1		114.6		120.9		94.5	

うに、単位時間内の文の数においては著しく数値が高くなっている。これは、テープレコーダーによる方法と、筆記による場合との記録法の相違がある他に、大人からの働きかけがある場面と、子どもだけの遊びの場面による相違もあり当然の結果であろう。

また、牛島氏は文の数は3才まで年齢とともに増加し、3才で頂点に達すると報告しているが、今回の結果では2才6か月が頂点になったようにみられる。これは、3才児の調査数が充分でないことと、子どもの言語活動に対し母親側からの働きかけの程度に差があることが影響を及ぼしていると考えられるので、今後検討してみたい点である。

b）文の長さ

文の長さを、一文を構成する品詞数から調べたものが第25表である。また、一文中に含まれる品詞数の平均値を求めて、文の長さを発達的にみようとしたのが第26表である。3才に比べて2才6か月に、長い文を話せるものがあらわれている他は、年齢がすすむにしたがって文の長さは長くなっている。しかし、第26表にみられるように牛島氏の報告と比較すると全般的に短かくなっている。これは、母親からの働きかけが多く、これに対し一語文で応答する結果であろうか。

第26表　文の長さ
Table 26.　Length of Sentence

	一文中の品詞数	牛島氏の研究結果
1;0	1.0	
1;6	1.08	1.36
2;0	1.42	
2;6	2.36	2.81
3;0	2.62	
3;6		4.42

c）品詞及び語彙

第27表のように年齢の上昇に伴なって使用される品詞の種類が増加している。2才までは名詞の出現頻度が高いが、次第に動詞、助動詞、助詞など、他品詞の使用が

第27表 品詞の出現率
Table 27. Frequency of Parts of Speech

品詞＼年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
名詞	5.4	71.8	24.0	46.3	66.2	39.4	63.7	22.2	37.6	14.0
代名詞	0.3	4.0	3.5	6.7	17.4	10.5	27.6	9.6	23.6	8.9
数詞			0.3	0.6	2.1	1.3	5.2	1.8	4.0	1.5
動詞	0.05	0.7	2.1	4.0	15.0	9.0	42.3	14.7	42.6	16.0
形容詞	0.1	1.4	2.1	4.0	4.8	2.9	13.2	4.6	6.5	2.5
連体詞							1.0	0.3	0.6	0.2
形容動詞			0.4	0.7	2.3	1.3	4.8	1.7	4.6	1.7
副詞			0.8	1.4	3.9	2.3	9.3	3.4	8.6	3.4
接続詞							0.4	0.1	0.7	0.3
感動詞	0.8	10.7	10.9	21.0	24.5	14.7	21.7	7.6	21.0	7.9
助動詞			0.8	1.4	9.4	5.7	25.9	9.0	38.0	14.3
助詞			1.3	2.5	16.6	10.0	70.0	24.4	60.2	22.6
未分化語	0.2	2.7	0.7	1.3	1.1	0.7	0.1	0.03		
擬声	0.7	8.7	5.3	10.1	3.9	2.3	2.1	0.7	18.0	6.7
計	7.5		51.9		167.2		287.0		266.2	

多くなっている。

また、第28表にみられるように使用される語彙も2才6か月までは年齢とともに増加している。

既に述べたように、名詞についてその内容をみると、動物、人、のりものなど子どもの身辺の狭い世界から広い領域へ次第に広がっていく傾向をみせている。（第29表）

代名詞は、第30表に示したように、事物を指示するコレ、アレが最初にあらわれ、次いで場所を指示するココ、アソコなど、方角を指示するコッチ、アッチが使用され、人に関する代名詞の出現は遅れる。自称の代名詞は男子のボクが比較的早期に使用されるのに対し、女子は自分の名前でいうことが多く、ワタシという言葉は3才までに殆ど使用されていない。また、対称の代名詞、キミ、アナタ、は3才までには全く出現しない。

代名詞、近称（コ）、中称（ソ）、遠称（ア）、不定称（ド）の指示詞の中、コが最も早く使用され、ド、ア、ソ、の順に出現し、ソが最も遅れる。

数詞は、大人の口まねから始まり、2才でモウヒトツ、ミッツアル、など数を正しく使うものがあらわれて

第28表 語彙の出現
Table 28. Increase in Vocabulary

	1;0	1;6	2;0	2;6	3;0
名詞	2.0	8.8	28.6	29.2	20.4
代名詞	0.3	0.8	3.1	4.8	5.3
数詞		0.3	1.0	2.7	2.1
動詞	0.1	0.9	6.6	16.8	17.5
形容詞	0.1	0.9	1.9	4.6	3.5
連体詞				0.4	0.3
形容動詞		0.2	0.8	1.9	2.6
副詞		0.3	2.4	4.7	4.5
接続詞				0.2	0.6
感動詞	0.6	2.6	4.8	6.1	6.5
助動詞		0.4	2.9	5.9	5.8
助詞		0.6	4.7	12.4	13.3
未分化語	0.1	0.3	0.4	0.1	
擬声	0.2	1.5	1.8	1.4	5.8
計	3.4	17.8	58.8	90.9	88.1

第29表　名詞の分類
Table 29. Classification of Noun

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
自然			0.1	0.4	1.5	2.4	2.0	3.2	0.8	2.8
動物	2.1	38.3	7.0	29.0	12.9	20.6	6.5	10.3	1.8	5.1
植物					0.3	0.5	0.6	0.9	0.2	0.5
建造物			0.1	0.4	1.0	1.6	1.2	1.8	1.4	3.8
人	0.8	15.0	3.3	13.5	7.4	11.8	9.6	15.3	5.2	14.5
身体・生理	0.1	1.9	0.8	3.1	2.3	3.6	2.1	3.3	1.1	3.1
病気・薬品			0.1	0.2	0.5	0.8	0.4	0.6		
飲食物	0.4	7.5	2.3	9.6	7.2	11.5	3.2	5.1	0.5	1.3
服装品	0.2	2.8	0.4	1.7	2.0	3.1	1.5	2.4	0.3	0.8
日用品・家具・器具	0.1	0.9	0.3	1.3	1.9	3.0	5.3	8.4	1.4	3.8
電気・機械	0.2	2.8			0.2	0.3	0.2	0.2	0.5	1.3
遊戯・遊具	0.6	11.2	0.8	3.3	4.0	6.3	5.6	8.9	2.8	7.9
交通・通信	0.8	14.0	6.4	26.4	13.4	21.5	6.3	9.9	6.5	18.1
社会			0.3	1.3	1.0	1.6	1.2	1.9	1.1	3.1
固有名詞			0.7	2.7	3.6	5.7	7.5	11.8	4.1	11.5
抽象名詞			0.1	0.2	1.3	2.0	7.5	11.8	6.2	17.3
動詞的名詞			0.2	0.8	0.9	1.4	0.5	0.7	1.1	3.1
その他	0.3	5.6	1.5	6.1	1.4	2.2	2.1	3.3	0.7	2.0
計	5.4		24.0		62.5		62.9		35.6	

第30表　代名詞の分類
Table 30. Classification of Pronoun

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
人			0.05	1.4	0.5	3.0	0.5	1.6	1.3	5.6
事物	0.3	83.3	2.1	59.5	12.0	72.1	16.4	59.5	10.9	48.0
場所	0.05	16.7	0.6	17.4	3.7	21.9	5.9	21.4	3.8	16.8
方角			0.8	21.8	0.5	3.0	4.8	17.5	6.7	29.6
自称			0.05	1.4	0.4	2.1	0.3	1.1	0.8	3.6
近称(コ)	0.3	83.3	2.6	75.4	14.2	85.1	21.6	79.5	16.5	72.5
中称(ソ)			0.05	1.4	0.4	2.1	0.3	1.1	0.5	2.0
遠称(ア)	0.05	16.7	0.7	20.3	0.4	2.1	0.8	2.7	1.2	5.2
不定称(ド)			0.05	1.4	1.4	8.4	4.3	15.6	3.8	16.8
計	0.3		3.5		16.7		27.5		22.8	

第31表 動詞の活用
Table 31. Conjugation of Verb

活用形＼年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
未然					1.8	12.6	5.0	12.1	6.4	15.6
連用			0.8	38.2	8.9	62.5	24.0	57.9	24.4	59.8
終止			0.2	7.2	3.0	20.6	11.4	27.6	8.9	21.8
連体					0.05	0.4	0.4	1.0	0.4	0.9
命令			0.2	7.2	0.2	1.5	0.2	0.4	0.4	0.9
語幹のみ	0.05	100.0	1.0	47.7	0.4	2.8	0.5	1.2	0.3	0.7
計	0.05		2.1		14.3		41.4		40.8	

第32表 形容詞の分類
Table 32. Classification of Ajective

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
感覚 触覚			0.2	7.2	1.1	22.6	1.6	12.2	1.1	17.4
感覚 味覚					0.1	2.2			0.5	8.7
善悪					0.5	9.7	2.5	19.1	1.4	21.8
大小			0.4	16.7	0.05	1.1	1.4	10.3	1.2	18.8
色彩			0.2	7.2			0.7	5.0		
空間	0.05	50.0	1.4	64.3	1.7	36.5	4.6	35.1	1.0	16.0
感情	0.05	50.0	0.1	4.8	1.2	26.8	2.0	14.9	0.8	13.0
形態							0.3	2.0	0.1	1.4
その他					0.1	2.2	0.2	1.5	0.2	2.9
計	0.1		2.1		4.7		13.1		6.3	

いる。

動詞を活用形の上からみると、第31表のように1才6か月では連用形の他に、終止形、命令形が僅かに使用されているが、2才からは殆どの活用が可能になる。しかし、3才までに仮定形の使用はみられなかった。

形容詞は、ナイということばから使用され始め、ついで、イタイ、大キイ、イイ、コワイなどがあらわれている。しかし、初めは物の性質や状態をあらわすことばとしてでなく、ナイは欲しいという気持ちの表現であったりして、感情的な色彩を帯びたことばが多くつかわれる。年齢の上昇にしたがって、丸イ、四角イ、大キイ、小サイ、遠イ、狭イなど、形態や、大小、空間などをあらわすことばが使用され形容の種類も広範囲になってくる。（第32表）

形容動詞についても、初期はイヤダ、ダメダなど主観的なことばが多いが、発達とともに語彙、使用頻度ともに増加しいる。

副詞は、1才6か月には大人の模倣によるドーゾがあらわれ、2才では擬声語が文中に使用され始める。擬態語の使用はやや遅れ、モット、モウ、コウなど量や状態をあらわす副詞とともに2才6か月より目立ってくる。

感動詞は、第33表にみられるように大人の話しかけに

第33表　感動詞の分類
Table 33.　Classification of Exclamation

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
感動	0.05	12.5	0.5	4.6	3.5	15.8	2.3	10.6	4.4	21.7
呼びかけ			0.4	3.7	1.0	4.1	5.2	24.0	4.7	23.5
応答	0.7	81.3	7.3	66.5	10.1	43.1	9.6	44.0	7.3	36.1
疑問			0.2	1.8	2.8	11.7	2.7	12.5	1.0	5.0
あいさつ			0.6	5.5	0.8	3.2	0.3	1.4	0.1	0.5
注意・叱責			0.05	0.5			0.2	0.7		
拒否	0.1	6.2	1.7	15.6	3.0	13.0	1.2	5.6	1.6	8.1
その他			0.2	1.8	2.1	9.0	0.3	1.2	1.0	5.0
計	0.8		10.8		23.4		21.6		20.1	

応ずる、ウン、ハイ、返事としてのハイが早くからあらわれ、各年齢段階を通じて使用頻度が高い。ついで、アア、アレなど感動をあらわすことば、ホラ、アノネなどの呼びかけや、人の話しかけに対し、ウン？ときき返したり拒否的な感情をあらわすイャーンなどがあらわれている。

助動詞の使用状況は第34表に示した通りである。1才6か月では完了、過去のタ、の使用が稀にみられる。2才では打消しのナイ、断定のダ、デス、2才6か月では意志を表わすウ、ヨウの使用が増加している。2才6か月以後、僅かではあるが、受身、可能のラレル、使役のサセルなどの助動詞も用いられる。

活用形の上からみると終止形が最も多く、連用形、未然形の順になり、仮定形、連体形は殆ど使用されていな

第34表　助動詞の分類
Table 34.　Classification of Auxiliary Verb

年齢	1;0	1;6		2;0		2;6		3;0	
		F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
使役						0.05	0.2	0.1	0.3
受身						0.1	0.4	0.4	1.0
可能						0.1	0.4	0.1	0.3
打消し				1.3	14.5	4.0	15.4	6.9	19.0
意志・推量				0.7	7.8	3.2	12.3	2.6	7.2
完了・過去		0.6	80.0	3.6	40.0	10.0	38.8	13.7	37.7
希望				0.7	7.2	0.2	0.6		
断定		0.05	6.7	1.8	20.0	5.2	20.1	5.3	14.5
たとえ						0.1	0.4	0.3	0.8
丁寧				0.2	2.2	0.6	2.3	0.8	2.3
その他		0.1	13.3	0.8	8.3	2.4	9.2	6.2	17.0
計		0.8		9.0		25.7		36.4	

第35表 助動詞の活用
Table 35. Conjugation of Auxiliary Verb

年齢	1;0	1;6		2;0		2;6		3;0	
		F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
未然				0.3	3.3	1.2	4.7	0.9	2.5
連用		0.1	13.3	0.8	8.3	2.8	10.7	7.2	19.7
終止		0.7	86.7	8.0	88.4	21.4	83.2	28.4	77.8
連体						0.1	0.4		
仮定						0.3	1.0		
計		0.8		9.0		25.7		36.4	

第36表 助詞の分類
Table 36. Classification of Particle

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
格助詞			0.05	3.9	2.2	13.6	15.4	21.8	10.4	18.0
接続助詞			0.3	23.0	5.7	36.1	16.5	23.8	13.5	23.4
副助詞			0.2	11.5	2.2	13.9	8.8	12.6	3.7	6.5
終助詞			0.8	61.6	5.8	36.4	27.7	39.8	29.5	50.9
その他							1.4	2.0	0.8	1.4
計			1.3		15.8		69.4		57.6	

第37表 文節数からみた文の長さ
Table 37. Length of Sentence—studied by the Number of Phrase

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%	F/N	%
一文節	6.8	100.0	41.8	97.0	95.8	83.5	74.5	61.6	57.7	60.4
二文節			1.2	2.8	16.5	14.4	33.1	27.3	26.7	28.0
三文節			0.05	0.1	1.9	1.7	9.4	7.7	7.7	8.1
多文節					0.4	0.4	2.5	2.1	2.6	2.7
並列文							0.4	0.3		
複文							0.2	0.2	0.2	0.2
数をかぞえる			0.05	0.1	0.05	0.04	0.9	0.7	0.5	0.5

い。（第35表）

助詞は第36表のように、1才6か月より使用され始めて、終助詞が最も多く、ついで接続助詞、格助詞、副助詞の順に使用頻度が高い。終助詞のヨ、ノ、は各年齢段階を通じて使用頻度が高いが、2才以後、動詞の使用に伴なって接続助詞のテ、構文の複雑化にしたがって格助詞のノ、副助詞のハの使用が目立っている。

未分化語は、1才6か月、2才に多く、年齢が進むと減少している。

擬声は、遊びの種類により規定されているが、出現は男子の方に多く、年齢がすすみ、遊びの種類が広範囲にわたるにしたがって擬声の種類も増している。

d）構文

文の構造について、年齢別に、文節により調べたものが第37表である。3才までの会話は二文節までの文が多く、発達にしたがって文節数の多い文もあらわれている。

(3)　性別による比較

a）文の数と語数

単位時間内に話された文の数と語数を、性別によって比較したものが第38表である。1才、2才、2才6か月ではいずれも男子の方が多くなっており、一般に女子の方がよく喋るといわれるが、必ずしもその傾向は認められない。

第38表　文の数と語数の性別による比較
Table 38.　Number of Sentence and Word
—Comparison by Sex—

年齢	文の数		語数	
	男	女	男	女
1；0	7.4	6.2	7.4	6.2
1；6	32.9	53.2	34.5	58.8
2；0	128.0	101.2	177.7	148.8
2；6	131.0	110.8	291.4	278.2
3；0	89.0	101.0	237.7	260.8

b）文の長さ

文の長さをみると、第39表に示したように、3才では極めて少差ではあるが男子の方が長い文を話しており、1才では差がなく、他の年齢段階では僅かではあるが女子の方に発達が優位の傾向がみられる。

c）品詞と語彙

性別により品詞の出現のしかたを比較すると、1才、

第39表　文の長さの性別による比較
Table 39.　Length of Sentence
—Comparison by Sex—

年齢	男	女
1；0	1.0	1.0
1；6	1.04	1.11
2；0	1.43	1.47
2；6	2.22	2.51
3；0	2.68	2.57

第40表　15分間に使用された語彙
Table 40.　Vocabulary used in 15 Minutes

年齢＼性別	男	女
1；0	3.1	3.6
1；6	11.4	23.2
2；0	57.0	60.6
2；6	87.5	94.3
3；0	95.2	79.6

1才6か月、2才では女子の方に発達が早い傾向をうかがうことができるが、その後は殆ど差がない。遊びに伴なっての擬声は男子の方に多い。

単位時間内に使用された語彙については第40表のように3才を除いていずれの年齢段階においても女子の方が多く、この点でも女子の方に発達が早い傾向をみることができる。

名詞の内容をみると、男子では交通、のりものに関するものが著しく多く、女子は1才から2才までは動物、2才6か月では固有名詞、3才では遊びに関することばが多くなり、差をみせている。

自称代名詞は男子の方が早く用いる傾向をみせている。

d）構文

文の構造を文節数からみると、第41表のようになり、性別による差は殆どみられない。

(4)　グループによる比較

一人子の男子（Aグループ）、兄の1名ある男子（Bグループ）、姉の1名ある男子（Cグループ）、一人子の女子（Dグループ）、兄の1名ある女子（Eグループ）、姉の1名ある女子（Fグループ）に分けてその発達の差

第41表 文節数の性別による比較
Table 41. Number of Phrase—Comparison by Sex—

年齢	1;0		1;6		2;0		2;6		3;0	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %	F/N %
一文節	7.4 100.0	6.2 100.0	31.9 97.0	51.6 97.1	105.5 82.4	86.1 85.0	83.4 63.7	65.6 59.2	53.0 59.3	62.2 61.7
二文節			1.0 3.0	1.4 2.6	20.3 15.9	12.7 12.6	38.0 29.0	28.1 25.4	25.3 28.5	27.8 27.4
三文節				0.1 0.2	1.9 1.5	1.8 1.8	6.5 5.0	12.2 11.0	6.8 7.9	8.6 8.4
多文節					0.2 0.1	0.6 0.6	1.7 1.3	3.3 3.0	3.3 3.7	1.6 1.6
並列文							0.5 0.4	0.3 0.3		
複文								0.4 0.4	0.3 0.4	
数をかぞえる				0.1 0.2	0.1 0.1		0.9 0.7	0.9 0.8	0.2 0.2	0.8 0.8

第42表 文の数、語数、文の長さのグループによる比較
Table 42. Number of Sentence, Number of Word, Length of Sentence
—Comparison by group of children with Sibling and no Sibling—

年齢	グループ	A	B	C	D	E	F
1;0	文の数	11.8	6.0	3.0	6.8	8.0	3.7
	語数	11.8	6.0	3.0	6.8	8.0	3.7
	一文中の品詞数	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
1;6	文の数	30.8	25.7	43.0	50.3	46.3	64.0
	語数	31.8	26.0	46.7	56.0	51.0	70.3
	一文中の品詞数	1.03	1.01	1.09	1.11	1.10	1.10
2;0	文の数	97.0	186.0	85.7	81.3	126.7	87.0
	語数	117.5	279.0	124.4	122.5	178.0	133.7
	一文中の品詞数	1.21	1.50	1.45	1.51	1.40	1.54
2;6	文の数	111.5	135.7	152.3	134.3	102.3	88.0
	語数	256.5	303.0	326.3	355.8	238.0	216.0
	一文中の品詞数	2.30	2.23	2.14	2.65	2.33	2.45

をみた。

第42表のようにグループによって一定の傾向はみられず、一般に一人子が発達が早いといわれているが、今回の結果からはその傾向を認めることはできなかった。

(5) 最頻出現語彙

出現頻度の多い語彙を50位まであげると、第43表の通りである。

3. 要 約

1) 1才、1才6か月、2才、2才6か月の幼児各20名と3才の幼児11名について、録音による方法を用い、言語発達の状況を構文の領域から調べた。

第43表　最頻出現語彙
Table 43.　Vocabulary of High Frequency

出現順位	こ と ば	平均頻数	牛島氏の順位	出現順位	こ と ば	平均頻数	牛島氏の順位	出現順位	こ と ば	平均頻数	牛島氏の順位
1	コレ	6.6	1	19	スル	1.0	3		オニーチャン	0.5	81
2	ウン	4.9	2		ヤル	1.0	14		モウ	0.5	
3	タ（助動詞）	4.7			デンシャ	1.0			落チル	0.5	73
4	ママ	2.3	お母さん 16	22	ネ	0.9			チョーダイ	0.5	55
5	ブーブ	2.2		23	パパ	0.8	お父さん 45		ダメダ	0.5	33
6	ナイ（助動詞）	2.0			ヤダ(形容動詞)	0.8			ニャーニャ	0.5	
	ココ	2.0	4		汽車	0.8	78		飛行機	0.5	
8	コッチ	1.8	28	26	ホラ	0.7		44	見ル	0.4	17
9	ハイ	1.7	21		イイ（形容詞）	0.7	よい 96		取ル	0.4	26
	居ル	1.7	11		行ク	0.7	8		オーライ	0.4	
	ナイ（形容詞）	1.7	25		アッ（感動詞）	0.7			ジ	0.4	
12	ダ（助動詞）	1.6			来ル	0.7	5		ヒトツ	0.4	23
13	チャッ(助動詞)	1.5			コウ（副詞）	0.7	10		チガウ	0.4	75
	イヤ	1.5	6	32	デス	0.6	7	50	赤	0.3	63
15	ワンワン	1.1	77	33	出来ル	0.5	39		ソウ	0.3	47
	有ル	1.1	9		乗ル	0.5	56	51	入レル	0.2	37
	ナニ	1.1	12		痛イ	0.5	66				
	ウ（助動詞）	1.1			ドコ	0.5	31				

2）単位時間内に話される文の数は、2才6か月までは年齢とともに増加するが、3才ではやや減少している。

3）語数は、年齢のすすむにしたがって著しく増加しているが、3才ではやや減少している。2)、3)について3才児に発達的な傾向が認められないのは調査数が充分でない点に原因があるのではないかと思われる。

4）文の長さは、発達にしたがって長くなっており、男女を比較すると僅かではあるが女子に発達の優位な傾向がうかがえる。

5）年齢の上昇とともに使用される品詞の種類及び語彙も増大している。2才6か月ではすべての品詞にわたって出現がみられる。

6）名詞は、発達に伴なって、子どもの身辺に限られた狭い領域に関するものから広い領域へ広がっている。

7）代名詞は、事物、場所、方角、人の順に使用される。

8）動詞は、2才から殆どの活用形の使用が可能になる。連用形が最も多く、終止形、未然形の順に使用頻度が高い。

9）助詞の使用は、1才6か月から始まり、終助詞、接続助詞、格助詞、副助詞の順に使用頻度が高い。

10）構文を、文節数の上からみると成長とともに文節数が増加している。

11）一人子、第二子の発達の差を比較したが、明らかな傾向はみられなかった。

〔文　献〕

1）牛島義友・森脇要　幼児の言語発達　愛育研究所紀要教養部第二集
2）村田孝次　幼児の言語発達　培風館　1967年
3）矢田部達郎　児童の言語　創元社　1957年
4）小西輝夫　幼児の言語発達　児童精神医学とその近接領域　Vol. 1　No. 1.　1960年

Study on the Development of Speech and Language of Children

Toshio Takeda
Takeko Mochizuki
Akiko Maruo

1) This study is to research into the speech and language development of children from the standpoint of sentence structure, adopting the method of tape-recording.

The subjects: 20 children selected from each stage of 1:0, 1:6, 2:0, and 2:6 years of age respectively, and 11 children of 3 years old.

2) The number of the sentences sorken within the given unit of time increases up to the age of 2:6 with the growth of children, but at 3:0 it lessens a little.

3) The number of words increases remarkably as the age advances, but at 3:0 it decreases a little. The children of 3 years old are not showing development in sentences and words presumably because the number of the subjects is small.

4) The sentences become longer in accordance with the development of children. Girls show slight advancement in the development of sentences comparing with boys.

5) The kinds of part of speech aud vocabulary increase along with the children's development. All parts of speech appear at the age of 2:6.

6) With the advancement of age, children come to use more 'nouns' indicating those things concerned with wider sphere of their activities.

7) 'Pronouns' come to be used in the order of objects, places, directions, and persons.

8) 'Verbs' (there are 6 forms of conjugation in the Japanese language)-it is found almost all the forms can be used by children over the age of 2:0. Renyō-form is the highest in frequency, followed by shūshi-form and mizen-form.

9) 'Joshi' (particles) come into use beginning at 1:6 years of age. The order of frequency is: shū-joshi, setsuzoku-joshi, kaku-joshi, and fuku-joshi.

10) Seeing the sentences from the viewpoint of phrases, the number of phrases increases in accordance with the children's development.

11) Comparative study on the speech and language development between 'only child' and 'the second of two children' shows there is no clear difference between them.